

| | | | |
|----------------|---|------|-------|
| 科目名 | キリスト教学Ⅰ | 必修選択 | 必修 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当教員 | アンネリーゼ・デーケン 御子神隆也 | 単位数 | 2 |
| | | 開講時期 | 1年次後期 |
| | | 開講学科 | 全学 |
| 目 標 | キリスト教思想に基づく人間の生と死の理解を学ぶことを通して、人生の意義や人間の尊厳について考え、人間らしく豊かに生きるための指針を探る。 | | |
| 内 容 | 毎回定められたテーマ（下記「計画」参照）について講義を行い、いくつかのテーマについて小論文を作成、提出させる。 | | |
| 履 修 上 の 注 意 | 特になし。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 今を生きる | | |
| 2. | 私は誰か | | |
| 3. | 生きがい・人生の意義について | | |
| 4. | 宗教とは何か—宗教が人間社会に果たす役割、宗教と科学との関係 | | |
| 5. | ユダヤ教・キリスト教の成立／聖書という書物 | | |
| 6. | キリスト教の自然観・世界観—創世記 1、2 章から | | |
| 7. | 人間の「罪」について—創世記 3 章から | | |
| 8. | イエスの登場と時代背景 | | |
| 9. | イエス・キリストの言葉と行い(1) | | |
| 10. | イエス・キリストの言葉と行い(2) | | |
| 11. | イエス・キリストの言葉と行い(3) | | |
| 12. | イエス・キリストの言葉と行い(4) | | |
| 13. | 「十字架」とその意味 | | |
| 14. | 苦しみについての問い—人はなぜ苦しまなければならないのか | | |
| 15. | 総括 | | |
| テキスト | 『聖書—新共同訳・旧約聖書続編付き』（日本聖書協会） アルフォンス・デーケン著『キリスト教と私』（聖母の騎士社） 石川康輔編『きょうの祈り』（ドン・ボスコ社） | | |
| 指定図書 | なし。 | | |
| 評価基準 | ①試験・小論文（70%） ②授業出席（30%） | | |

| | | | |
|----------------|--|------|-------|
| 科目名 | 哲学B | 必修選択 | 選択 |
| | | 授業形態 | 講義 |
| 担当教員 | 御子神隆也 | 単位数 | 2 |
| | | 開講時期 | 1年次後期 |
| | | 開講学科 | 全学 |
| 目 標 | 人間として正しく善く生きること（倫理）について探究するための基礎的な知識を学び、人間らしく豊かに生きるために自ら考える姿勢を身につける。 | | |
| 内 容 | 倫理学概論。倫理学における主要なテーマ（下記「授業計画」参照）を取り上げ、それについて講義、質疑応答を行う。 | | |
| 履 修 上 の 注 意 | レポート作成に役立てるために、講義内容に関連する5冊程度の本を読むことが求められる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しく生きることの意味—倫理とは何か 2. 善悪の基準に関する諸説(1) 3. 善悪の基準に関する諸説(2) 4. 自然道徳律—倫理の成立根拠に関する考察 5. カントの人間観と道徳哲学 6. シューラーの価値人格主義 7. 良心に関する考察(1) 映画「Scent of a Woman」の観賞1 8. 良心に関する考察(2) 映画「Scent of a Woman」の観賞2 9. 良心に関する考察(3) 討論—良心を育てるために 10. 生命倫理(1)—概論：生命の尊厳とは何か 11. 生命倫理(2)—初期の生命をめぐる問題（出生前診断と優生思想） 12. 生命倫理(3)—終末期の生命をめぐる問題（尊厳死、安楽死） 13. 性をめぐる倫理—人間にとっての性、生殖/出産に関する権利 14. 結婚をめぐる問題—結婚/育児と倫理 15. 総括・レポート作成指導 | | |
| テキスト | なし（テーマごとに講義レジュメ、教材プリントを配布する）。 | | |
| 指定図書 | なし。 | | |
| 評価基準 | ①授業出席（30%） ②レポート（70%） | | |